全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2023年11月10日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

もっと楽しく、ほいく誌に親しもうをめざして！

何気ない工夫で、ほいく誌にふれる取り組みをしよう！

愛知県 豊川市の取り組み

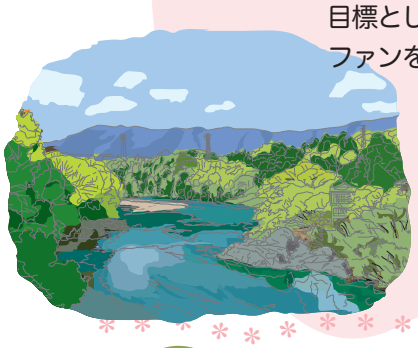
市連協の活動で、楽しい学童保育を感じてもらいたい！

豊川市学童保育連絡協議会では、保護者が気軽に市連協の会議に参加してもらえるように、運営委員会の会議の数を減らし、その分、保護者交流会を加え、保護者が参加しやすい地域連協にしていこうと２年前から動き出しています。とくに工夫をしているのは、「ほいく誌の読みあわせ」です。事前にほいく誌の読みあわせか所を共有しておき、運営委員会では、指導員さんお手製のくじを準備し（ガチャガチャ、ペープサート、トランプなどなど）、何人かの方をその場で指名して、感想を伝えてもらいます。誰が当たるかわからないので、参加者は必ずほいく誌を読んできます。読みあわせでは、みんながドキドキです。運営委員会には豊川市子育て支援課の方も参加され、ときに学童保育にからめてしっかりと感想を言ってくれます。

ほいく誌を手にとり、読んでみる、伝えあうことで、他の学童保育の様子を知ったり、自身の子どもの成長を感じ取ったりと、楽しい読みあわせのなかで、学童保育そのものを感じとってもらっています。

ほいく誌に掲載されると、盛り上げます！

愛知県連協発行の「いっぺん読んでみゃ～」は、県内の掲載が紹介され、まず読んでみよう！ と毎月発行されています。これを参考にして、学童保育の玄関先に「掲載されました！」のお知らせを掲示したり、時には施設をお借りしている大家さんに、ほいく誌をプレゼントしたりしました。大家さんの会社の SNS で、ほいく誌をご紹介いただき、子どもたちの楽しそうな様子も伝えられました。ほいく誌をきっかけに、地域とのつながりもできるんだなと感じた瞬間でした。また、市連協では、目標として、ほいく誌に子どもたちの「イラストを送ろう会！」を行っています。ほいく誌の新たなファンを発掘できるといいなと願い、市連協みんなでほいく誌を応援しています。



日本の学童ほいく11月号

特集 子どもの権利と学童保育

学童保育は子どもにとって、安全に安心して過ごせる「生活の場」であることが必要です。今回の特集では、「子どもの権利条約」と学童保育の関わりをあらためて学ぶとともに、一人ひとりの声を大切にした「生活づくり」の様子、学童保育を「生活の場」にふさわしく整備した取り組み、「子どもの権利」に関わる指導員・保護者の思い・願いを交流します。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万4000部

2023年11月10日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

岩手県滝沢市●保護者から

2023年7月号の特集「働きながらの子育て――学童保育と共に」に掲載されていた保護者や指導員の方々のお話を、ただただ共感しながら読んでいました。家に帰ってきてからは、毎日の生活を優先させることに必死で、なかなか子どもの細かなところまで見られないことも多々ある日々。後ろめたさを感じる日も多いけれど、子どもを「まんなか」に見てくれる学童保育の存在の大きさにいつも助けられています。

日本は労働時間が長く、女性に求めるものが多く、睡眠時間も短い……。こう書くと、「とんでもない国」で子育てをしているんだなぁと、あらためて実感します。「できることがあたりまえ」のちょっと変わった国で子育てをがんばる自分自身に、「お疲れさま！」の一言をかけてあげることを忘れないようにしようと思いました。

『日本の学童ほいく』2023年11月号「読者のひろば」より

石川県金沢市●保護者から

2023年8月号の特集「やっぱりいいね！　学童保育の行事」の冒頭に掲載されていた、「笑顔あふれる行事をみんなで！」を読みました。

コロナ禍でも、全国各地の学童保育でさまざまな工夫をしながら楽しい行事を開催しようという取り組みが進められていたことを知り、子どもたちの工夫や指導員の方々の努力に胸を打たれました。

わが家の長男は現在小学2年生です。1年生のときは、学校や学童保育でマスクの着用が義務づけられるなど、さまざまなことが制限されていました。いまでは徐々にそれらが緩和されていますが、未だに「マスクつけないとへんな感じ」と言ったりしています。やはり、コロナ禍が子どもたちに与えた影響は大きいのだなと感じます。

日常が少しずつ戻ってくるなかで、今年は学童保育の行事も昨年より多く、親としては本当にうれしく思います。子どもたちも、これまではできなかったことを精一杯楽しみながら、楽しく生活してほしいと思います。

『日本の学童ほいく』2023年11月号「読者のひろば」より

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は高知県安芸市から
第58回全国学童保育研究集会で特別報告をした
指導員の福本かおりさん

読者のニーズにここまで答えてくれる本があっていいのだろうか！？　というのが『日本の学童ほいく』をはじめて手に取ったときの感想です。さまざまな分野の専門家、全国各地の保護者さんと子どもたち、そして気持ちを同じくする指導員の先生方。学童保育に関わる全ての方の思いにふれられる大変貴重な月刊誌であると感じています。

私の職場では、気になった記事を職員間で共有しています。共有しあうことで、自分では深読みしないような記事をも読み、新たな発見もできています。私自身は、巻頭グラビアカラーの学童保育の紹介ページが大好きです。学童保育の施設・設備は、地域格差が大きくあり、私たちの学童保育もまた、課題を抱えています。子どもたちが快適に気持ちよく生活できるように、さまざまな工夫を加えているのですが、学校の教室を一部改修してできた学童保育施設は、なかなか快適な…　という環境とは言いきれません。そんななか、学童保育の紹介のページで見たロフト式のくつろぎスペースを参考にし、2段ベットを購入しました。作り付けではないので、自分たちでDIYを行い、隠れ家兼くつろぎスペースの確保に成功したのでした。空間を縦に使うという発想はとても画期的でした。指導員の仕事に終わりはありません。これからも『日本の学童ほいく』と共に、進化しつづける学童保育であり、自分たちでありたいと思っています。

編集・発行　全国学童保育連絡協議会　〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 本郷宮田ビル4階　TEL●03-3813-0477　FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp　http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou